

## 工業 浸流 PVC軽量管がNETIS登録

発売以来、累計で100件超の実績



リユークートLight

（堺市美原区、大久保秀俊社長）は同社で製造する内外面PVCコーティング軽量鋼管「リユークートLight」と「クリモト臭突管」が1月28日付で国土交通省の新技术情報システムである

NETIS登録を受けたと発表した。PVCコーティング軽量鋼管は板厚1・6mmの母管に、板厚6mmの鉄板フランジを両側溶接したパイプに流動浸漬法を用いて全面PVCコーティングを施した商品。SGP鋼管と比較し重量が約5分の1となっており、現場施工の効率化メリットがある。廃水管として用いられる際にPVCコーティングが効いて、硫化水素によって鋼管本体が腐食しないという特性がある。

既に同商品は東京の丸の内や大手町、名古屋駅前、大阪の大型ビル、全国の大型ホテル向けなどに100件以上の納入実績がある。サイズ対応が柔軟で150Aから600Aまで手掛けている。550A以上は母管板厚2・3mmとなる。超軽量であることから大型施設に使用される大径サイズのニーズが高いという。同社ではNETIS登録により、既存分野における拡大だけでなく、新規開拓にも注力している。

## 工業 浸流 「取引甲斐ある企業、働き甲斐ある職場」(大久保社長)

▽：流浸工業はプラスチック・コーティング専門メーカーで、流動浸漬法を用いて、金属表面に各種プラスチック・コーティングを行っている。主力事業としてはコーティングの他にリユークートシリーズのようなオリジナル商品の販売、協力工場と連携したOEM商品開発などが挙げられる。現在、社長を務める大久保秀俊氏は2代目社長で今年2月25日に就任したばかりだ。大久保社長は抱負として「当社は今年で創業53年になる。100年企業を目指して、より一層会社を成長させていくために、変えてはいけないところ、変えるべきところをしっかりと見極め、舵取りをしていきたい。当社は取引甲斐のある企業づくりと、働き甲斐のある職場づくりを企業理念としており、ここは大切に守っていく」と話している。

▽：同社の流動浸漬法は63年に西ドイツから技術導入したもので、当時としてはプラスチック・コーティングという技術は未知のものだったという。日本国内で同社ははじめてこうした技術導入をはかり、やがて専門メーカーとして発展を遂げていく。製造拠点は本社のある堺市美原区のほか、関東では熊谷、関西では奈良を含め3拠点。今回NETIS登録された商品は大阪と関東工場の手掛ける。

▽：主力のコーティングはPVC（塩ビ）コーティング、ナイロンコーティング、EVOHコーティングがある。コーティングパイプとしてはリユークートLightをはじめ、ナイロン11コーティング鋼管、塩ビコーティング鋼管、サニタリーベント鋼管、EVOHコーティング鋼管、ポリエチレン鋼管を製造している。協力会社のネットワークが充実しているのが同社の強み。連携を活かし板金・表面処理・樹脂成型・パイプ加工・プレス加工・線材加工・铸造などの加工に対応している。（康）

▽：大久保社長は1980年生まれの39歳。「世の中の社長の平均年齢は60歳、それからすると20歳の差がある。だが若いゆえに吸収できること、挑戦出来ることもあるはず。先代からしっかりと守ってきた企業理念を引き継ぎ、会社の発展に努めたい」と話す。入社してからは関東事業部・関東工場でもノゾくりの現場で鍛えられた。リユークートシリーズは自身が入社間もない頃にオリジナル商品として販売開始したこともあり、強い愛着を持っている。今年1月にNETIS登録を完了させたが、もともと実績のある商品であるだけに、これから案件として出てくる首都圏や主要都市の大型ビルやホテル、学校関係などで一層の拡販が実現できると力が入っている。